

平成 2 9 年度 南区地域福祉アクションプラン
福祉分野別計画 進行管理表

- 児童・子育て支援 1 ~ 3
- 障がい者福祉 4 ~ 7
- 高齢者福祉・介護支援 8 ~ 1 0
- 地域づくり 1 1 ~ 1 3

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	子育て世代が孤立しないまちづくり			
課題	子育て相談, 支援に関する情報提供	・健診や育児相談会, 保健師や助産師による訪問などの機会を利用し, 子育てに関する情報提供や相談の場をつくる。	①	多様な手法による子育て情報発信
	子育て支援制度の充実	・情報誌やホームページの活用によって情報を提供する仕組みを構築し, 子育ての相談, 支援に関する情報提供を強化する。	②	子育て中の親同士の交流促進, ネットワークづくり
	同世代の親同士の意識づくり	・乳幼児健診の場を, 子育ての相談や仲間を見つける機会として活用する。	③	訪問・相談事業の強化

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	健診や育児相談会, 訪問などの機会を利用し, 子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場 各12回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児各400回	産婦 延403回 新生児等 延566回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節6回, 1歳6か月・3歳各12回	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場各12回	3会場 各12回	A	27 ~ 32
②	NPプログラムの開催(「Nobody's perfect」の略で, 「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い, 自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	2回, 24人	2回, 23人	A	27 ~ 32
②	BPプログラムの開催(初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課 児童館等	開催回数・参加者数	未定	4回, 80人	4回, 48人	B	27 ~ 32
②	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる, 子育て中の親子が気軽に参加し, 支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	開催回数・参加者数	未定	30回, 700人	33回, 692人	A	27 ~ 32
③	子育て支援リーダー等によるアウトリーチ支援(アウトリーチ型支援研修を受講した子育て支援リーダーや主任児童委員が, 子育て家庭を訪問し, 地域情報を届けたり, 悩みを聞いたりする。)	南区健康福祉課 子育て支援リーダー	訪問回数	未定	30回	アウトリーチ支援の体制は整ったが, 依頼がなかった	C	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○子育て相談, 支援に関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診や育児相談会, 訪問などの機会を利用し, 子育てに関する情報を提供した。 <p>○子育て支援制度の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPプログラム, BPプログラム, 子育て広場等を実施したり, 健診時には悩みを相談できる場をつくり, 母親が孤立しないよう支援出来た。 <p>○同世代の親同士の意識づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診や育児相談会等を仲間づくりの場として活用できている保護者も多い。NPプログラムやBPプログラムに参加した方からは, 「参加して良かった」という声が多く, 同じ月齢の親同士の良い関係ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BPプログラムが全市展開事業となり, 育児不安・孤立感の解消や母子の愛着関係の形成につながっている。今後も参加への呼びかけやPRが必要である。 ・アウトリーチ支援のための体制づくりを行い, 周知を兼ねてアンケート調査を行った。アンケート結果では「良い取り組み」「利用したい」などの回答が70%以上であったが, 実際の利用の申し込みはなかった。引き続きPRを行っていく。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域で支えるゆとりを持った子育てができるまち			
課題	父親や家族の育児への参画	・子どもを連れて参加できる地域活動を増やすなど、親しい関係をつくる。 ・子育て関連の講座の開催にあたっては、保育付きの機会を増やす。 ・ボランティアの育成と活動を支援する。	①	子育て中の親同士の交流促進, ネットワークづくり
	地域からの声かけによる育児支援		②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
	子育てサロンやサークル活動などへの支援		③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー, ボランティアの育成と活動の支援

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	NPプログラムの開催 (「Nobody's perfect」の略で、「完璧な親なんていない」という意味。親が相互に知恵と体験を出し合い、自らの力で問題を解決する講座。保育付き講座。)	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加者数	未定	2回, 24人	2回, 23人	A	27 ~ 32
①	BPプログラムの開催 (初めて子育てをする親たちの親子の絆づくり講座。)	南区健康福祉課, 児童館等	開催回数, 参加者数	未定	4回, 80人	4回, 48人	B	27 ~ 32
①	サロン交流会 (子育て中の親子の不安やストレスの解消, 情報交換の場として気軽に集うことのできる「親子の居場所」を支援し, 活動費の一部を助成するもの。)	南区社会福祉協議会	開催回数, 参加団体数	未定	2回	1回, 5団体	B	27 ~ 32
①	子育て広場交流会の開催	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加人数	未定	1回, 15組	2回, 33組	A	27 ~ 32
①	安産教室への父親参加を継続, 家族・地域で子育てにつなげる	南区健康福祉課	開催回数	未定	1クール3回X年3回	1クール3回X年3回	A	27 ~ 32
			父親参加人数	未定	15人X3回	延33人/3回	A	27 ~ 32
②	各地区の多世代交流事業の開催	各地区	各地区別計画で管理, 評価	未定	未定			27 ~ 32
③	子育て広場の開催(子育て支援リーダーによる, 子育て中の親子が気軽に参加し, 支援を行う場を提供するもの。)	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加者数	未定	30回, 700人	33回, 692人	A	27 ~ 32
④	子育て支援リーダーの育成	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	支援リーダー数	20人	1人増	1人増(累計18人)	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等	評価指標												
<p>○父親や家族の育児への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の安産教室に, 各回定員15人のところ1回あたり平均11人の父親参加があり, 育児への参画の第一歩となっている。安産教室や健診等を利用して, 父親や家族の育児参加があった。 <p>○地域からの声かけによる育児支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援リーダーによる子育て広場は, 参加者から好評価を得ており, 参加者が増加している。 <p>○子育てサロンやサークル活動などへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン交流会・・・ボランティアグループによる手遊び, 絵本・紙芝居の読み聞かせ。各サロンの活動紹介, 子育て支援センターとの情報交換を行い, 子育てについての悩みを相談できる場所や, 南区内の居場所・関係機関について情報共有出来た。 ・各子育てサロンの紹介を子育て支援センター・児童センター・児童館に掲示し, 地域の方に活動を周知し, 多数の参加があった。 	<p>・子育て広場, BPプログラムなどの事業を継続して実施できるように, 子育て支援リーダーやボランティアがさらに増えるよう育成し, 確保することが課題である。</p> <p>・育休後の職場復帰等でサロン継続が困難な団体が増え, サロン数も減少傾向にある。 南区では, 子育て支援センターの充実もあり, 団体化につながらない。 今後は, サロン同士の交流だけでなく, 子育て支援センターを交えた交流が必要。</p> <p>・子育てサロンに参加していない親子へも交流できる場が必要。子育て支援センター, 児童センター等と連携し, 親子で参加できる場の提供を検討。</p>	<table border="1"> <tr> <td>評</td> <td>A</td> <td>概ね90%達成</td> </tr> <tr> <td>価</td> <td>B</td> <td>概ね75%達成</td> </tr> <tr> <td>指</td> <td>C</td> <td>概ね50%達成</td> </tr> <tr> <td>標</td> <td>D</td> <td>ほとんど実施せず</td> </tr> </table>	評	A	概ね90%達成	価	B	概ね75%達成	指	C	概ね50%達成	標	D	ほとんど実施せず
評	A	概ね90%達成												
価	B	概ね75%達成												
指	C	概ね50%達成												
標	D	ほとんど実施せず												

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (児童・子育て支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	安心して子育てできるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	子育て支援施設・事業の充実			
課題	子どもに関する悩みについてアドバイス	・育児についての悩みの相談・支援体制を強化。	①	子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくり
	子どもが安心して遊べる環境	・保育園の園開放や児童館のイベントなどを通じて情報発信に努め、保護者同士の交流会の機会をつくる。	②	地域住民全体で子どもを育む意識の向上
	子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分	・中高生を対象とした思春期教育により正しい知識の定着を図る。	③	子育て中の親子の居場所の確保
			④	子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援
			⑤	児童館・子育て支援センターによる子育てネットワークの構築
			⑥	訪問・相談事業の強化
			⑦	中高生を中心とした思春期教育の推進

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	健診や育児相談会、訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場 各12回	A	27 ~ 32
			新生児訪問回数	未定	産婦・新生児 各400回	産婦 延403回 新生児等 延566回	A	27 ~ 32
②	健診や育児相談会の場を保護者の仲間づくりの機会として活用する	南区健康福祉課	健診回数	未定	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	股関節 6回, 1歳6か月・3歳 各12回	A	27 ~ 32
			育児相談回数	未定	3会場 各12回	3会場 各12回	A	27 ~ 32
②	子育て広場の交流会の開催	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	開催回数, 参加人数	未定	1回15組	2回, 33組	A	27 ~ 32
③	ファミリー・サポート・センターによる子育て世帯の支援, 事業PR	南区健康福祉課, 南区社会福祉協議会	登録者数, 提供会員数	未定	登録者数60 提供会員数30	登録者数96 提供会員数25	A	27 ~ 32
④	既存の保育サービスの拡充と新たなサービスの検討	南区健康福祉課		未定		1保育園定員10人増加 有資格臨時保育士3名雇	A	27 ~ 32
⑤	児童館・子育て支援センターのネットワーク会議の開催	南区健康福祉課, 児童館等	会議開催回数	18	3回	3回	A	27 ~ 32
⑥	子育て支援リーダー等によるアウトリーチ支援(アウトリーチ型支援研修を受講した子育て支援リーダーや主任児童委員が, 子育て家庭を訪問し, 地域情報を届けたり, 悩みを聞いたりする。)	南区健康福祉課, 子育て支援リーダー	訪問回数		30回	アウトリーチ支援の体制は整ったが, 依頼がなかった	C	28 ~ 32
⑦	思春期教育の実施	南区健康福祉課・中学校・高校	開催回数	未定	高校1回, 中学校7回	高校1回, 中学校5回	B	27 ~ 32
			参加人数	未定	高校80人, 中学校400人	高校79人, 中学校486人	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等	評価指標
<p>○子どもに関する悩みについてアドバイス 健診や育児相談会、訪問などの機会に育児支援を強化出来た。</p> <p>○子どもが安心して遊べる環境 児童館や子育て支援センターの利用者から直接意見をいただき、改善できるものは改善を行い、より利用しやすい環境整備に努めることが出来た。</p> <p>○子育て支援施設や事業の内容の周知が不十分 健診や育児相談会、訪問などの機会に周知している。 南区社協だより、社会福祉協議会ホームページ、子育てサロン交流会にてファミリーサポートセンター説明会の周知を行った。</p>	<p>・健診や新生児訪問は、ほぼ全員に実施しているが、育児相談会や子育て支援センター等は希望者の参加になる。 相談ができずに一人で悩んでいる人がいないようにしていくことが今後必要。</p> <p>・登録会員に対し、提供会員が減少しているため、住民へファミリーサポートセンターの事業内容・必要性を分かりやすく伝える。</p>	<p>評 価 指 標</p> <p>A 概ね90%達成</p> <p>B 概ね75%達成</p> <p>C 概ね50%達成</p> <p>D ほとんど実施せず</p>

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	福祉サービス利用の相談体制充実		番号	内容
課題	相談支援事業者等の周知	・関係する専門機関が情報を共有し、相談する人の立場に立った相談や情報の提供が図られる相談支援体制の推進 ・行政や社会福祉協議会等の広報を利用して、相談窓口の周知	①	相談支援事業の強化
			②	基幹相談支援センターの充実
			③	多様な手法による障がい福祉制度の周知

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
③	区だより掲載	南区健康福祉課	広報掲載	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
③	社協だより掲載	南区社会福祉協議会	広報掲載	6回	1回	0回	B	27 ~ 32
①②	相談支援に関する研修会開催	南区健康福祉課, 基幹相談支援センター秋葉	実施数	5回	1回	1回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
相談支援事業者等の周知 ・9/17区だよりに基幹相談支援センター秋葉についてを掲載した。社協だよりによる広報は行っていないが、その代替りとして、幼保育園、小中学校の関係者を対象にした研修会において相談窓口の周知を行った。その後、研修会の実施内容について新聞記事として取り上げてもらい、広く周知を図った。その他、主催する会議や研修会等の機会を捉え、その都度、周知活動を行った。	・引き続き周知を図っていきたい

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉)

基本目標 「ひととひととがふれあい, 安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	障がいのある人と地域が交流できるまち		番号	内容
課題	地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくり	地域で行われているまつりやイベントなどの交流の場に障がいのある人が積極的に参加できるよう地域住民が呼びかけるなど, 受け入れ環境の整備の推進	①	民生委員・児童委員, 地区社会福祉協議会やコミュニティ協議会及びその他の団体との連携強化
			②	小中学校の支援学級に対する情報提供

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①②	南区自治協議会, 校長会へ情報発信	南区健康福祉課	情報発信数	6回	1回	1回	A	27 ~ 32
①	地区社会福祉協議会行事への参加依頼	南区社会福祉協議会	情報発信数	6回	1回	1回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくり</p> <p>・平成29年度は, 自治協議会に障がい者施設の取組みについての報告と地域行事の情報提供についてお願いをし, 障がいのある人が地域との交流に参加する機会を広げるきっかけづくりを行った。</p>	障がい者が地域の行事に参加できるよう継続的に働きかけを行う必要がある。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (障がい者福祉)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	自立支援体制の充実		番号	内容
課題	地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進	南区障がい者地域自立支援協議会や南区地域福祉ネットワーク会議を通じ、関係機関における情報共有を進めることで、生活課題の早期発見や早期支援に努める。	①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営
			②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	南区障がい者地域自立支援協議会の運営	南区健康福祉課	開催回数	24回	4回	4回	A	27 ~ 32
②	南区地域福祉ネットワーク会議の運営	南区保健医療福祉のつながりを深める会	開催回数	12回	2回	2回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進</p> <p>・自立支援協議会では、6つの課題を抽出し、平成28、29年度で進行管理を行いながら課題解決のための手法等を検討した。課題解決に向け、教育、医療、福祉の関係者の集まる機会が増え連携が進んでいる。</p>	<p>今後も継続的な地域課題等についての情報共有が必要である。</p>

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表(障がい者福祉)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	わかりやすい福祉情報の提供		番号	内容
課題	障がいのある人が安心して外出する、バリアフリー情報が不足している	福祉情報マップを作成し、公共施設や福祉施設等に設置する。	①	福祉情報マップの作成と活用
			②	福祉新聞の検討

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
②	福祉新聞の検討	アクションプラン推進委員会、南区健康福祉課	検討会の開催数	4回	1回	1回	A	27 ~ 29

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>障がいのある人が安心して外出する、バリアフリー情報が不足している</p> <p>・福祉新聞の検討については、平成29年7月に検討を行った。誰が作成するか、スタッフも新聞発行予算もなく課題があるとの検討結果であったことから、他の取り組みに置き換え、新聞という形ではなく情報発信していくという結果に至った。</p> <p>・障がいのある方等が安心して外出することが出来るよう、バリアフリー情報を掲載した「南区おでかけ福祉マップ」を作成し、公共施設や福祉施設等に設置した。</p>	他の取り組みに置き換え、区だより、研修会を通して情報発信していく。

評価指標	A	概ね90%達成
	B	概ね75%達成
	C	概ね50%達成
	D	ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	高齢者・介護者を支えあうまちづくり	地域で緩やかな見守りができるような取り組みづくりと高齢者・介護者の支援体制の周知	①	地域全体で高齢者を見守る体制の構築
課題	地域力の弱体化(人間関係が希薄になり、隣近所の様子が見えない)		②	高齢者の相談窓口「地域包括支援センター」の周知
	地域包括支援センターの認知度		③	介護者の支援
	介護教室の参加人数		④	地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	見守りを行うための個人情報の研修	健康福祉課	研修会開催回数	1回	1回	1回	A	29 ~ 29
②	高齢者・介護者支援体制の周知(地域包括支援センター・介護教室)	健康福祉課 包括介護教室受託事業所	発信数	行事の度	行事の度	包括 12回(毎月) 教室 8回(開催毎)	A	27 ~ 32
③	介護教室を3圏域で実施	健康福祉課	実施圏域数	3ヶ所	3ヶ所継続	3ヶ所継続	A	27 ~ 32
④	区・圏域ケア会議を利用したネットワークの支援	健康福祉課 包括	開催回数	毎年開催	区域 1回 各圏域 1回	区域 2回 圏域計 3回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○地域力の弱体化(人間関係が希薄になり、隣近所の様子が見えない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関する研修会を開催し、高齢者への対応時の個人情報の取り扱いを確認。 ・28年度に実施できなかった区域のケア会議を2回実施し、高齢者の区全体の課題について検討。 <p>○地域包括支援センターの認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回「南区だより」に高齢者の相談窓口として情報を掲載。 ・茶の間訪問時やさわやかトーク宅配便開催時にPR。 ・医療機関等にポスターを掲示。 ・区内スーパーで行う高齢者出張相談会開催時にのぼり旗を使用してPR。 <p>○介護教室の参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活圏域毎(3圏域)に開催継続。 ・H29実績:実施回数 計8回 参加延人数 185人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力の再構築が求められており、一部の地域では、何とかしようという動きはあるが、全体的にみると、まだ、互助による助け合いの意識醸成が不足している。住民主体の見守りや支え合いのできる自治会・町内会を増やす必要がある。 ・地域包括支援センターの認知度は少しずつあがってきてはいるものの、まだ不十分な状態である。 ・介護教室も各日常生活圏域で開催が可能となったが、参加人数にばらつきがあり、ニーズにあった内容とすることや、周知方法を再考する必要がある。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護者支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齡者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	高齡者の健康づくり・介護予防の推進	・健康の維持・増進のため、健(検)診受診率の向上や、子どもを含めたより良い生活習慣の確立に向け、地域における健康づくりの取り組みを進める ・保健会と自治会、コミュニティ協議会など関係機関と連携し、継続的に活動を展開 ・健康づくりは、運動・食事・休養・こころの健康等様々な分野に及ぶため食生活推進委員、運動普及委員とも連携した健康づくりに取り組む	①	高齡者の健康づくりと介護予防の推進
課題	生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齡者層の受診率、後期高齡者健診、各種がん検診は、低い状況		②	地区保健会活動の推進
	生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される			

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	地区での健康づくり講座のフォロー講座実施(ウォーキング講座)と食育講座の実施	健康福祉課 地域住民	講座開催数	10回以上	2回	3回	A	27 ~ 32
①	ミニドック型集団健診の実施とコミ協での申し込み受付	健康福祉課 地域住民	特定健診受診者数	年4,000人	4,000人	3,040人	B	28 ~ 29
①	はかろう体重!大作戦の実施	健康福祉課 地域住民	カード配布数	10,000枚	10,000枚	10,600枚	A	28 ~ 29
②	地区での健康づくり講演会の実施	健康福祉課 地区保健会	講演会開催数	40回以上	10回	13回	A	27 ~ 32
②	生活習慣病予防事業「元気アップ講座」の開催	健康福祉課 地区保健会	講座開催数	70回以上	14回	20回	A	27 ~ 32
②	市民活動支援事業(保健会だよりでの啓発や世帯間交流など地区の実情にあった事業実施)	健康福祉課 地区保健会	事業実施数	60回以上	12回	11回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の70歳代の受診率、後期高齡者健診、各種がん検診は、低い状況</p> <p>・ミニドック型集団健診の実施により、特定健診受診者は増加しているが目標値までは達しなかった。</p> <p>○生活習慣では、飲酒・喫煙率が高く、運動の習慣がある人が少なく、このままでは生活習慣病の発症が危惧される</p> <p>・はかろう体重!大作戦の実施により、区民の健康づくりへの気運は少しずつ高まってきている。事業のPRをコミュニティ協議会と一緒に実施し、目標を上回るカード配布となった。</p>	<p>・ミニドック型集団健診及び医療機関で受診する施設健診(特定健診)の受診をすすめるために、さらなるPRが必要。</p> <p>・生活習慣の改善では、はかろう体重大作戦の実施をコミュニティ協議会、学校・保育園を中心にPRしたが、まだ区民全体としての取り組みにはなっていないため、今後は企業へも働きかけ、参加を呼び掛けていく必要がある。</p>

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015~2020)福祉分野別計画進行管理表 (高齢者福祉・介護者支援)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	高齢者が安心して暮らせるまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	認知症の予防と対策		番号	内容
課題	認知症高齢者の増加	認知症予防と認知症の正しい理解を広める	①	認知症予防のための脳の健康教室の開催
	認知症の理解		②	認知症の理解を深め、介護者を支える地域づくり

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	認知症予防の教室(楽しく脳力アップ塾)	健康福祉課	講座実施回数	1講座/年	1回	1回	A	27 ~ 29
②	認知症サポーター養成	健康福祉課 キャラバンメイト	周知回数	2回/年	2回	3回	A	27 ~ 32
②	キャラバンメイトのネットワークづくり	健康福祉課 キャラバンメイト	連絡会開催数	1回/年	1回	5回	A	27 ~ 32
②	認知症カフェの開催	地域包括支援センター, 白根健康センター, NPO法人ゆーわ	開催回数	4回/年	6回	11回	A	27 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○認知症高齢者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年度の地域包括支援センターやボランティアによる認知症カフェ立ち上げ支援後、開催が定例化され、29年度は隔月1回、29年5月より毎月1回の開催となる。 ・キャラバン・メイト未経験者と経験者を繋げる活動を5回実施したほか、区よりメールによる情報発信を6回実施し、サポーター養成講座開催の助けに繋がった。 <p>○認知症の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座について、地域包括支援センター主催の会議を通じ、各圏域ごとに周知を実施した。(H27年:22回, H28年:24回, H29年:21回)。一般市民の他、小学校、高校、警察などで行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ開催は定例化したが、運営メンバーと参加者の固定化が伺える。 ・より多くの地域の方々にサポーターとなってもらい、認知症を正しく理解するとともに認知症の人やその家族を温かく見守る体制が必要。 ・認知症サポーター養成講座開催の各種団体、小中学校への働きかけが必要。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり)

基本目標 「ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域のボランティア活動の場発信と活動支援	・ボランティア活動の情報集約とネットワーク化 ・ボランティア養成と活動の場充実 ・ボランティア同士の情報交換の場設置による相互の理解、交流の深化	①	白根健康福祉センターのボランティア活動の拠点化
課題	ボランティア団体の連携が弱い		②	南区版ボランティア情報誌の発行
	次世代のボランティア育成		③	ボランティア情報の集約とネットワーク化
	あらゆる世代への福祉教育による住民の支えあい意識の醸成		④	ボランティア養成講座の開催と活動の場紹介
			⑤	福祉教育の充実
			⑥	災害ボランティアの育成

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	ボランティアルーム利用方法の検討及び利用性の向上	センター管理者 ボランティア・市民活動センター	連絡会の開催回数(年2回)	11回	2回	ボランティアサロン開催12回	A	27 ~ 32
		健康福祉課	利用についての相談があった場合、白根健康福祉センター管理者と随時協議する。	随時	随時	重複利用団体との調整	A	27 ~ 32
②	ボランティア情報誌(紙)の発行	ボランティア・市民活動センター	発行回数(年2回)	11回	2回	2回	A	27 ~ 32
③	ボランティア団体(代表)の交流会開催による情報集約、連携体制構築	ボランティア・市民活動センター	交流会開催回数(年1回)	6回	1回	2回	A	27 ~ 32
④	講座、研修会(公民館主催を含む)の中で紹介	ボランティア・市民活動センター 公民館	講座等開催回数(年4回)	24回	4回	5回	A	27 ~ 32
⑤	区内小中学校の総合学習の時間を利用した福祉教育の推進・企業向け福祉教育	ボランティア・市民活動センター 小中学校、地元企業	実施回数(年16回)	96回	16回	学校 28回 大人向け 2回	A	27 ~ 32
⑥	災害ボランティアセンター設置訓練開催、災害ボランティアセンター検討委員会開催	ボランティア・市民活動センター、災害ボラセン検討委員	・訓練(年1回) ・検討委員会(隔月1回) ・研修会(年1回)	・6回 ・48回 ・4回	・1回 ・6回 ・1回	訓練 2回 検討委員会 6回	A	27 27 ~ 32 29

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○ボランティア団体の連携が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアが定期的に集顔を会わせることのできる時間を作る ボランティアルームを利用したボランティアサロンを開催して、ボランティアの集える時間を作った。 様々な講座を開催することでボランティア同志の交友を含めることができた。 <p>○次世代のボランティア育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南区のボランティアニーズにあったボランティア講座の開催 傾聴講座の開催によりボランティア団体への加入者が増加した。 <p>○あらゆる世代への福祉教育による住民の支えあい意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく大人への福祉教育の場の提供 学校での福祉教育の件数も増加した。大人向けの講座も2回開催することができた。 ・災害ボランティアセンターの役割を地域住民に理解してもらうよう地域を巻き込んで訓練を開催する。 味方地区公民館、味方地区ゲートボール場を会場に地域の方も参加して訓練を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアのニーズに沿った研修会を検討し開催することで多くのボランティア同志の顔の見える関係作りを行うことが必要。 ・ボランティアニーズに合ったボランティア講座の開催。 ・大人向け福祉教育の拡充。企業なども視野に入れる。 ・災害ボランティアセンターの役割を地域住民に理解してもらうと同時に有事の際南区災害ボランティアセンターでどのような繋がりができてどのような支援ができるかを、再確認する必要がある。

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
			番号	内容
小項目	地域の茶の間・ふれあいいいきサロン活動の支援			
課題	傾向として参加者女性のみまたは女性がほとんどで、また自力歩行による会場への移動が困難となっている。	・徒歩で参加できる範囲内にある茶の間等のPR方法の検討、広報 ・世代間交流を図りながら茶の間等の参加者や支援者の勧誘方法を工夫する	①	地域の茶の間とサロン交流会開催
	10年～15年続いている茶の間の代表の代替わりの時期となっている。		②	地域の茶の間とサロン運営研修会開催
	サロン・お茶の間独自開催できないところがある。		③	活動紹介や内容メニューを記載した冊子作成
	参加者の人数が少ないところは、助成金の活用が難しい。(概ね10人以上の参加者が必要)		④	地域の茶の間とサロンの立ち上げ支援
			⑤	地域の茶の間とサロンでの世代間交流会の開催

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①, ②	各種講座やサロン交流会及び研修会の実施	南区社会福祉協議会	ボランティア登録者数増	30名増	・交流会年1回 ・研修会年1回	・交流会年1回 ・研修会年1回	A	27 ~ 32
②	男性を対象にした交流会の開催	南区社会福祉協議会 協力自治会	交流会開催	年1回	年1回	実施なし	D	27 ~ 32
③	・南区サロン・お茶の間情報を年1回社協だよりに掲載(27年以前からの継続) ・サロン活動内容の広報 ・各お茶の間(サロン)会場に冊子を設置し、随時内容を更新	南区社会福祉協議会	・サロンお茶の間情報の提供(社協だよりに掲載) ・サロン活動内容等の周知 ・冊子は各お茶の間に設置	・広報紙掲載 ・6年で冊子作成1回	・広報紙掲載 ・冊子内容更新	・社協広報紙に地域の茶の間・サロンの実施団体を掲載 ・地域の茶の間サロン団体ファイルを作成し、配布	A	27 ~ 32 28
④	地域に合った茶の間づくり支援	地域の茶の間等 南区社会福祉協議会	立ち上げ要望に応じて相談	未設定	未設定	1か所(圏域支え合いのしくみづくり推進員と協力)	C	28 ~ 32
⑤	世代間交流会の開催(年2か所)	地域の茶の間等 南区社会福祉協議会	新規交流会開催回数	10か所	2か所	1回	C	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○地域の茶の間・サロン研修会を開催するなかで、助成金申請書等の説明を行うとともに活動のプログラムに取り入れられる内容について情報提供を行い、活用が図られている。</p> <p>○地域の茶の間・サロン活動は、参加者が皆で協力し、自分でできることをお手伝いしましょう。顔と顔の見えるお隣近所の繋がりから、困ったことがあれば助け合いましょうと啓発している。</p> <p>○多世代交流としてカーリング大会を1回開催し、保育園児から高齢者まで12チームの参加があり、交流を深めることができた。</p>	<p>○年1回開催のボランティアグループ・地域の茶の間・サロンの交流会に案内しているが、参加団体が固定の傾向にある。開催会場が白根中心となると交通の便など参加しにくい状況があるので、圏域別での開催を検討する。</p> <p>○男性を対象とした交流会は、地域包括ケア推進のモデルハウス天昌堂サロンを会場に開催し、参加者の意見等を収集する。</p> <p>○地域の茶の間・サロン助成金の多世代交流を目的とした助成金(旧Bタイプ)活用団体や小学校の長期休暇を利用しての子どもとの交流は、これら以外になかなか取り組めていないので、呼び掛けを行っていく。</p> <p>○地域の茶の間・サロンに自力で参加できない人の送迎については、事故等の懸念もあり、進んでいない。</p>

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず

平成29年度 南区地域福祉アクションプラン(2015～2020)福祉分野別計画進行管理表 (地域づくり)

基本目標 「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」

大項目	私たちが支えあい、助けあうまち	取り組み(施策)の方向性	取り組み	
小項目	避難行動要支援者支援体制の充実		番号	内容
課題	避難行動要支援者支援制度について、支援登録対象者への周知不足	要支援名簿を活用した地域住民による助け合いの体制づくり	①	自主防災訓練を通しての要支援者支援訓練の実施
	地域の助け合い意識の向上		②	災害ボランティアの育成

取り組み番号	実施内容(詳細)	実施者	成果指標	計画全体目標値	年度目標数値	年度実績	年度評価	期間(年度)
①	各自主防災会での防災訓練における要支援者支援訓練の実施	各自主防災会	訓練実施率	100%	60%	65%	A	27 ~ 32
①	支援者名簿と避難行動要支援者登録対象者の確認	自治会 各自主防災会	区が名簿更新時に自治会等へ確認要請する。	全団体	全団体	全団体	A	27 ~ 32
①	地域の避難行動要支援者登録対象者への意識付け	自治会 各自主防災会	自治会研修会で確認(年1回)	6回	1回	2回	A	27 ~ 32
②	高校生防災ボランティア育成研修会の開催	南区総務課 白根高校	研修会開催回数(年2回)	10回	2回	2回	A	28 ~ 32

課題に対して取り組みの成果	今後の課題等
<p>○避難行動要支援者支援者名簿制度について、避難行動要支援者名簿登録対象者への周知不足 自治会・町内会長説明会で自治会・町内会長が交代する場合に、避難行動要支援者名簿をしっかりと引き継ぐよう説明した。また、平成29年度は、制度名称が「災害時要援護者支援制度」から「避難行動要支援者支援制度」に名称変更となり、自治会・町内会長・自主防災会、防災士を対象に制度に関する説明会を実施した。</p> <p>○地域の助け合い意識の向上 各自主防災会の自主防災訓練での要支援者訓練の実施率65%(23自主防災組織中15組織が実施)であるため、区の総合防災訓練で要支援者訓練を取り入れ、実施方法は各自主防災会に任せる形で実施した。また、地域防災の担い手として期待される白根高校生徒を対象とした防災ボランティア講座に、近隣の自主防災会、自治会、防災士にも参加していただき、地域の助け合い意識の向上を図った。</p>	<p>・自治会・町内会の役員交代時に避難行動要支援者名簿の引継ぎが重要になるため、説明会等で引き続き周知していくことが必要。</p> <p>・避難行動要支援者訓練は、自主防災組織活動助成の市推奨訓練としての位置づけとなっていることから、実施率向上に向けた啓発が引き続き必要。</p>

評価指標	A 概ね90%達成
	B 概ね75%達成
	C 概ね50%達成
	D ほとんど実施せず